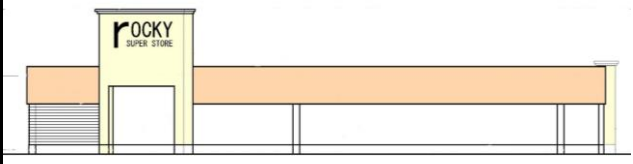


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	ロッキー植木店新築工事	階数	地上1F	
建設地	熊本県熊本市北区植木町植木字東	構造	S造	
用途地域	第二種住居地域、準工業地域、法24	平均居住人員	920 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年	
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2016年7月22日	
敷地面積	4,984 m ²	作成者	臼井 千尋	
建築面積	2,227 m ²	確認日	2016年7月22日	
延床面積	2,113 m ²	確認者	定森 淳一	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★

環境品質 Q

100

50

0

0

50

100

環境負荷 L

3.0

1.5

BEE=1.0

0.5

S

A

B⁺

B⁻

C

46

1.0

44

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆

BEE = 1.0

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

86%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価







評価点

72

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

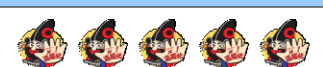
83.5

61.2

53.5

79.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

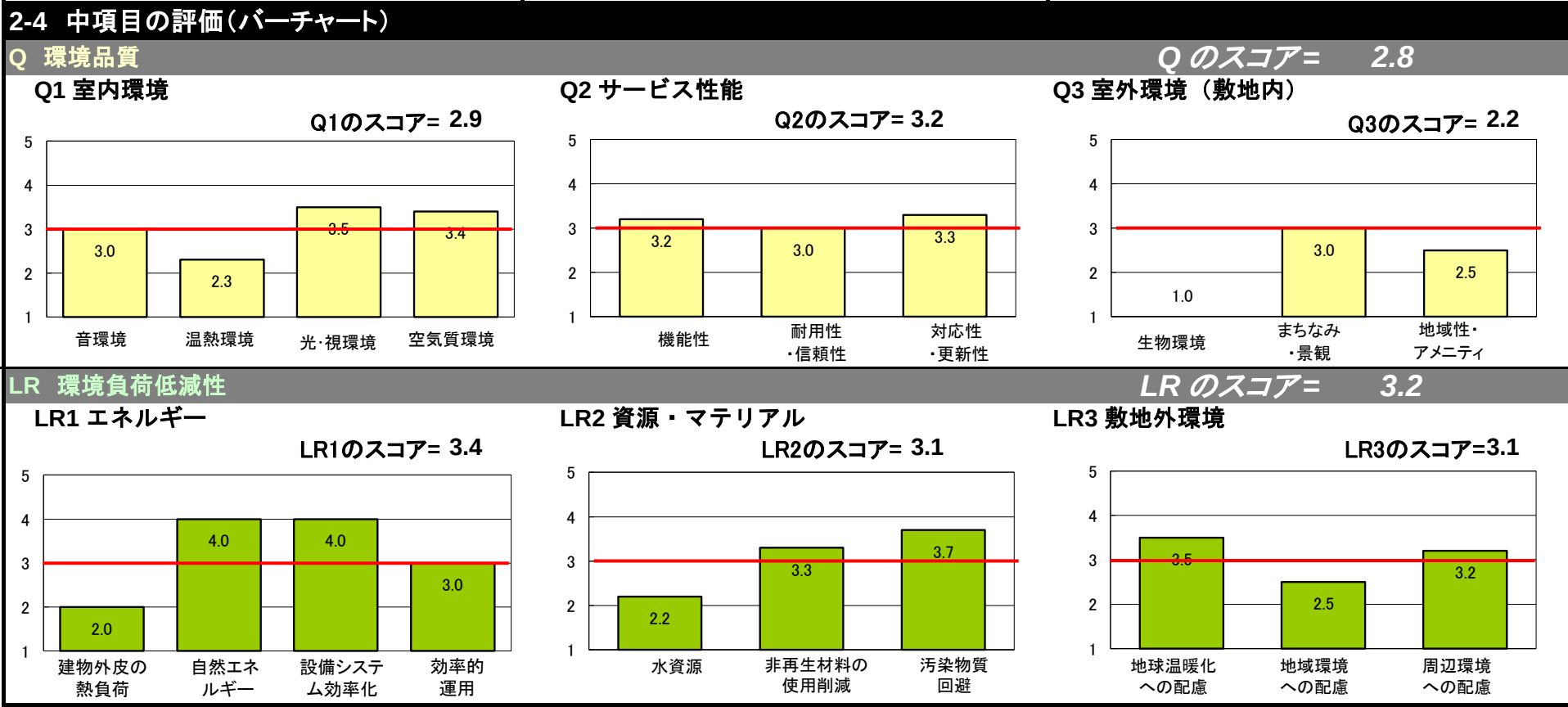
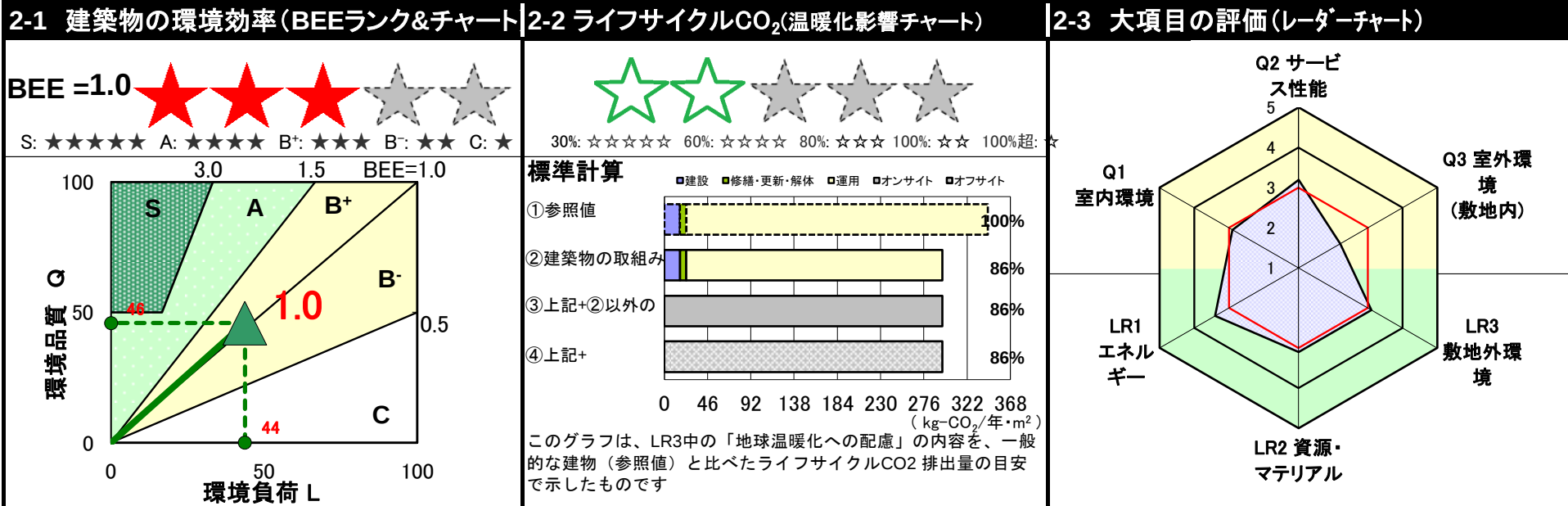
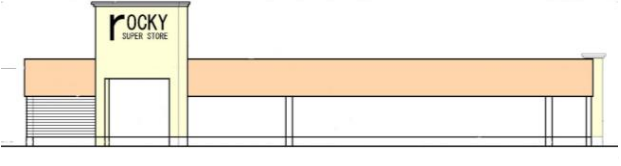
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ロッキー植木店新築工事	階数	地上1F
建設地	熊本県熊本市北区植木町植木字東	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、準工業地域、法2	平均居住人員	920 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2016年7月22日
敷地面積	4,984 m ²	作成者	臼井 千尋
建築面積	2,227 m ²	確認日	2016年7月22日
延床面積	2,113 m ²	確認者	定森 淳一



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 ロッキー植木店新築工事			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)				
スコアシート			実施設計段階						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境						0.40	-	-	2.9
1 音環境					3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 騒音					3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音					3.0	0.40	-	-	
1			開口部遮音性能		3.0	1.00	-	-	
2			界壁遮音性能		-	-	-	-	
3			界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4			界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音					3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境					2.3	0.35	-	-	2.3
2.1 室温制御					2.8	0.50	-	-	
1			室温		3.0	0.50	-	-	
2			外皮性能		2.0	0.17	-	-	
3			ゾーン別制御性		3.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御					3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境					3.5	0.25	-	-	3.5
3.1 昼光利用					4.0	0.50	-	-	
1			昼光率		-	-	-	-	
2			方位別開口		-	-	-	-	
3			昼光利用設備		4.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策					-	-	-	-	
1			昼光制御		-	-	-	-	
3.3 照度					-	-	-	-	
3.4 照明制御					3.0	0.50	-	-	
4 空気質環境					3.4	0.25	-	-	3.4
4.1 発生源対策					3.0	0.50	-	-	
1			化学汚染物質		3.0	1.00	-	-	
2			アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気					3.0	0.30	-	-	
1			換気量		5.0	0.50	-	-	
2			自然換気性能		-	-	-	-	
3			取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理					5.0	0.20	-	-	
1			CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2			喫煙の制御		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.2
1 機能性					3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	-	
1			広さ・収納性		-	-	-	-	
2			高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3			バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.3	0.30	-	-	
1			広さ感・景観		5.0	0.33	-	-	
2			リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-	
3			内装計画		3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1			維持管理に配慮した設計		4.0	0.50	-	-	
2			維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3			衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震					3.0	0.50	-	-	
1			耐震性		3.0	0.80	-	-	
2			免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.3	0.30	-	-	
1			躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2			外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3			主要内装仕上げ材の更新必要間隔		5.0	0.10	-	-	
4			空調換気ダクトの更新必要間隔		4.0	0.10	-	-	
5			空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0	0.20	-	-	
6			主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
			床:セラミックタイル張65年,壁:ビニルクロス貼20年,天井:化粧PB張30年 屋外露出の冷媒管はSUSラッキング仕上 主要な用途:給水管、汚水排水管、通気管:B以上Eは不使用						

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性				3.3	0.30	-	-
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	階高5.14m	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.09	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
	1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
	2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
	3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.0	0.20	-	-	2.0	
2 自然エネルギー利用			風除室ハイスайдライト採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.85 住宅(専有部) -	4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm=0.85	4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護				2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.60	-	-	3.3
	2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床:フロアリューム(東リ)	3.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と内装材、設備が容易に解体可能	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材の使用なし	5.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮			LCCO2=86%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制	交通負荷抑制に配慮	4.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への光害に配慮	5.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・室内環境、敷地内環境、敷地外環境に配慮
- ・高効率機器を採用し、省エネルギーに努めている。

Q1 室内環境

- ・内装材、天井材はF☆☆☆☆を使用し空気質環境に配慮

Q2 サービス性能

- ・維持管理に配慮した内外装設計
- ・耐用年数の長い材料を採用
- ・空間のゆとりに配慮

Q3 室外環境（敷地内）

- ・建物の高さとし、色相を抑え緑地帯を設け、敷地内環境に配慮した計画

LR1 エネルギー

- ・LED照明、高効率機器を採用し、省エネルギー性能に配慮

LR2 資源・マテリアル

- ・リサイクル品目の材料を使用し、発泡断熱材を不使用とし、資源・マテリアルに配慮

LR3 敷地外環境

- ・光害対策のガイドラインのチェックリストの過半を満たし、光害の抑制に配慮

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

ロッキー植木店新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		72
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				83.5	0.40	33.40
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.08			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.07			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	2.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				53.5	0.20	10.70
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	1.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				79.5	0.20	15.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数